

第2回 Oita食輸出コンソーシアム

2025/7/29

「令和6年県産加工食品の輸出実績について」

大分県 商工観光労働部
商業・サービス業振興課

1 令和7年度大分県加工食品輸出調査 概要

1. 実施方法

アンケート対象者	実施期間	照会方法	回収方法
県内加工食品製造・販売事業者 (R6.1～12の輸出実績)	令和7年5月	E-mail、 各支援機関からの照会	kintone

2. 配付・回数状況

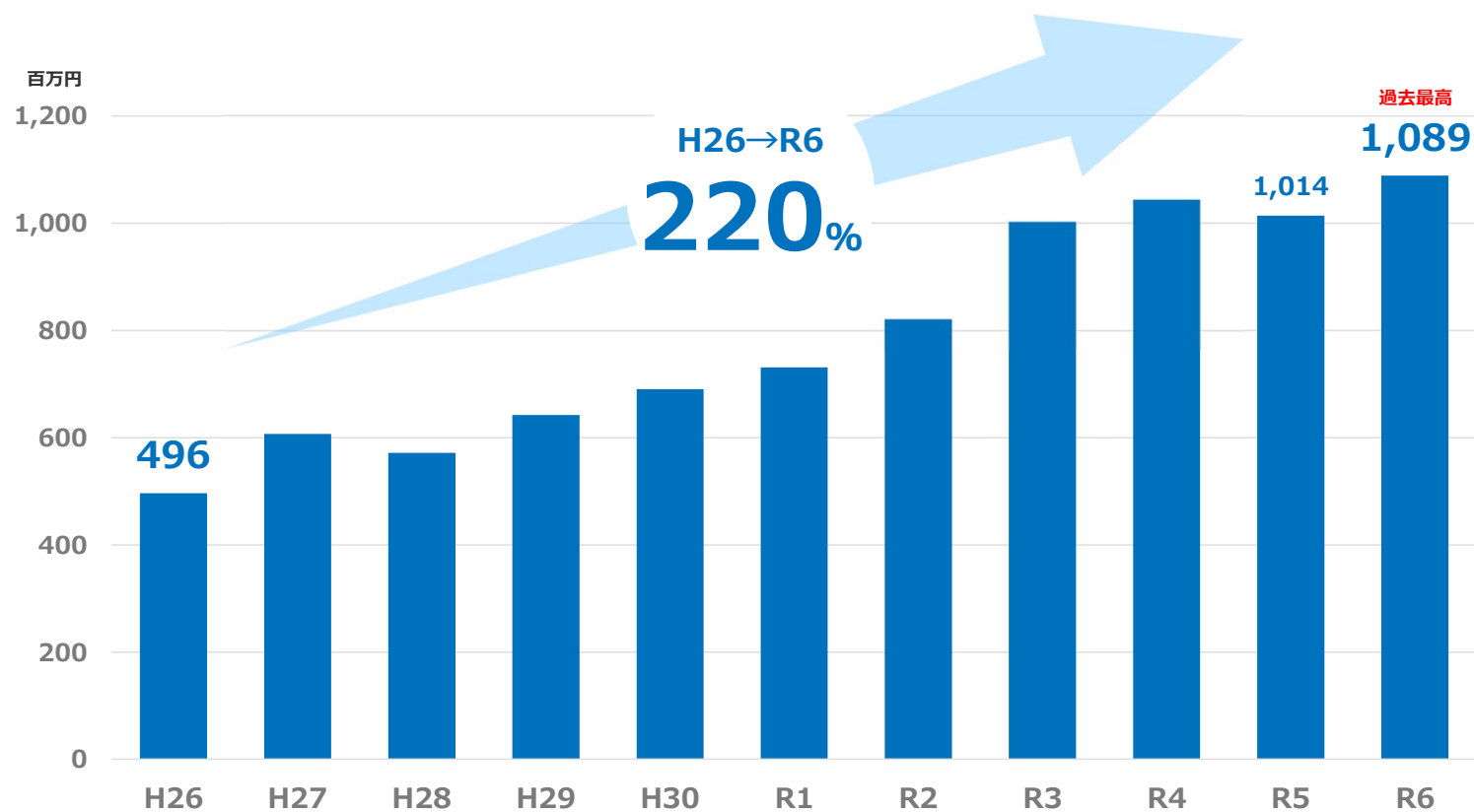
照会数	回答数	回答率
365社	104社 (うちR6年輸出実績あり60社)	28.5% (昨年度から1.7%増加)

3. 回答者属性

酒類	調味料	菓子類	飲料	その他加工食品
24社(20社)	12社(8社)	11社(7社)	8社(7社)	49社(18社)

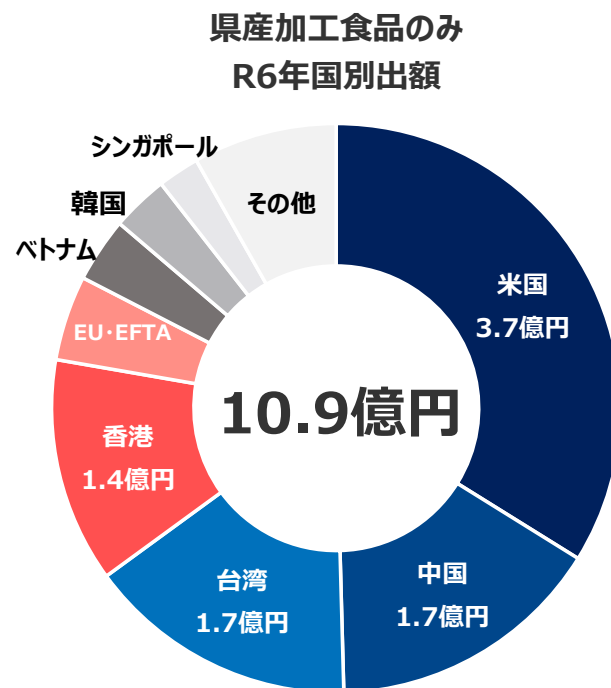
1 - 1 県産加工食品 輸出額推移

大分県産加工食品の輸出額は、H26年からR6年までの11年間で約2.2倍に成長した。
R5年の減少から再び増加へ転じ、R6年は過去最高額となった。詳細は次ページ以降。



1－2 国別輸出額

国別での比較では、米国が約3.7億円と前年から約1億円増加し、35%増で県全体の1/3を占めた。2位の中国は昨年に引き続き減少し、前年比25.5%減。1億円以上の上位4カ国は昨年と同様、米国・東アジアで3/4を占めた。



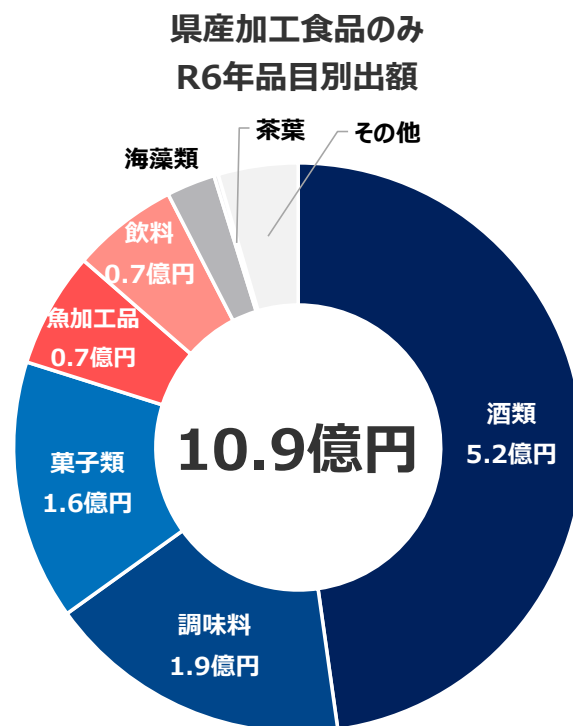
国	R5輸出実績		R6輸出実績		
	金額(百万円)	シェア率	金額(百万円)	シェア率	増減率
米国	273	26.9%	368	33.8%	134.9%
中国	230	22.7%	171	15.7%	74.5%
台湾	188	18.5%	167	15.4%	89.1%
香港	79	7.8%	139	12.8%	176.2%
EU・EFTA	37	3.7%	52	4.8%	140.9%
ベトナム	29	2.9%	40	3.7%	135.6%
韓国	30	2.9%	35	3.2%	118.4%
シンガポール	19	1.9%	26	2.4%	134.0%
その他	128	12.7%	89	8.2%	69.4%
合計金額	1,014		1,089		107.4%

◆R7年度台湾地域での取り組みを強化

- ・JETROを通じた「日台パートナーシップセミナー」の実施（9月）
- ・海外バイヤー招へい商談会の開催（12月初旬）
- ・県プロモーションにあわせた物産フェアの開催（1月）
- ・貿易協会による台湾商談会の開催を調整中
- ・タイガーエアや県内宿泊施設等での越境ECのPRを調整中

1－3 品目別輸出額

品目別では、5割近くを占める酒類が約5.2億円で1位だが、金額で約42百万円、前年対比では7.4%減少した。昨年大きく伸ばした調味料と菓子類は増加を続けている一方、飲料は前年対比36.9%減少した。魚加工品は新規取引開始により大幅な増加となった。



品目	R5輸出実績		R6輸出実績		
	金額(百万円)	シェア率	金額(百万円)	シェア率	増減率
酒類	562	55.4%	520	47.8%	92.6%
調味料	173	17.0%	188	17.3%	109.2%
菓子類	136	13.5%	161	14.8%	117.8%
魚加工品	6	0.6%	71	6.6%	1126.7%
飲料	104	10.3%	66	6.0%	63.1%
海藻類	18	1.8%	30	2.8%	162.6%
茶葉	5	0.5%	3	0.2%	51.1%
その他	9	0.9%	49	4.5%	558.9%
合計金額	1,014		1,089		107.4%

◆品目別製品例

調味料：醤油、ドレッシング、味噌、柚子胡椒、ポン酢、めんつゆ 等

菓子類：焼き菓子、冷凍さつまいも、ポン菓子 等

魚加工品：乾燥・干物加工品

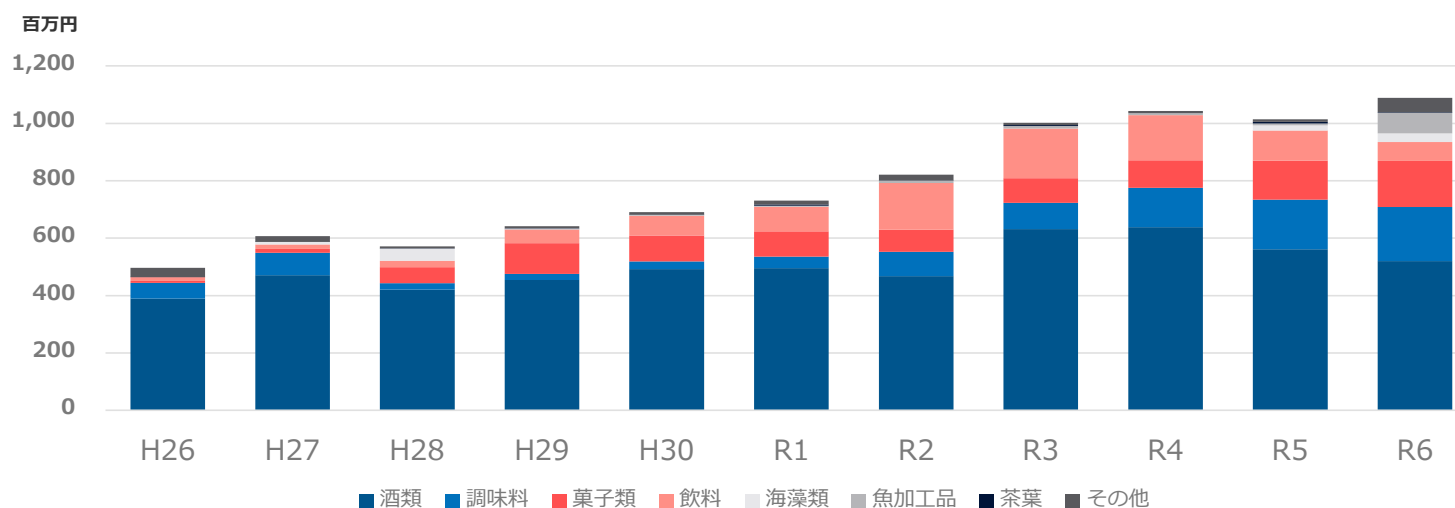
海藻類：ひじき・わかめ等の海藻調味加工

その他：納豆、冷凍フライ 等

※魚加工品・海藻類・農産品(乾しいたけ)は農林の調査と重複しないよう集計

1－4 品目別輸出額推移

H26年から11年間で輸出額は2.2倍に成長。R6年は全体輸出額の約半数を占める酒類は若干減少したが、調味料・菓子類では直近5年間で順調に輸出額を伸ばし続けた結果、過去最高額を更新。



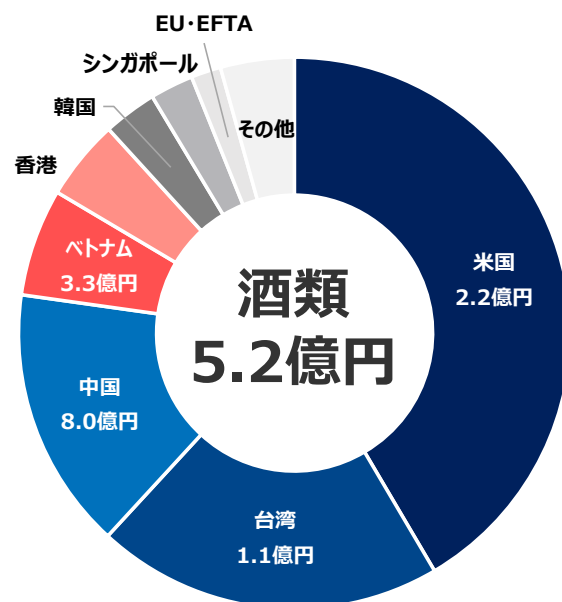
■ 輸出額推移（百万円）

品目	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	前年比
酒類	390	471	421	454	492	496	468	632	638	562	520	92.6%
調味料	55	78	22	21	27	39	85	91	138	173	188	109.2%
菓子類	6	14	56	107	90	89	77	86	96	136	161	117.8%
飲料	13	15	21	48	69	86	163	173	157	104	66	63.1%
海藻類		8	44	0	0	0	0	0	0	18	30	162.6%
魚加工品				3	3	4	7	9	6	6	71	1126.7%
茶葉	0	1	0	1	0	4	2	3	0	5	3	51.1%
その他	33	20	7	7	8	14	20	9	8	9	49	558.9%
計	496	607	571	642	690	731	821	1,002	1,043	1,014	1,089	107.4%

1 - 5 品目別内訳_酒類

酒類輸出額の約5.2億円のうち、米国が約2.2億円で前年対比121.1%で昨年に引き続き1位。米国に次いで取引額が大きかった台湾・中国は落ち込んだが、単に消費が落ち込んだ訳ではなく、商品発注のサイクルによる発注時期のズレが要因として挙げられる。昨年落ち込んだベトナムは回復傾向にある等、国別での増減がある。全体で見ると、前年比7.4%減少した。

※商品発注のサイクル：賞味期限の長い商品は半年に1回や1年に1回等の長期間のスパンで大口の取引を行う

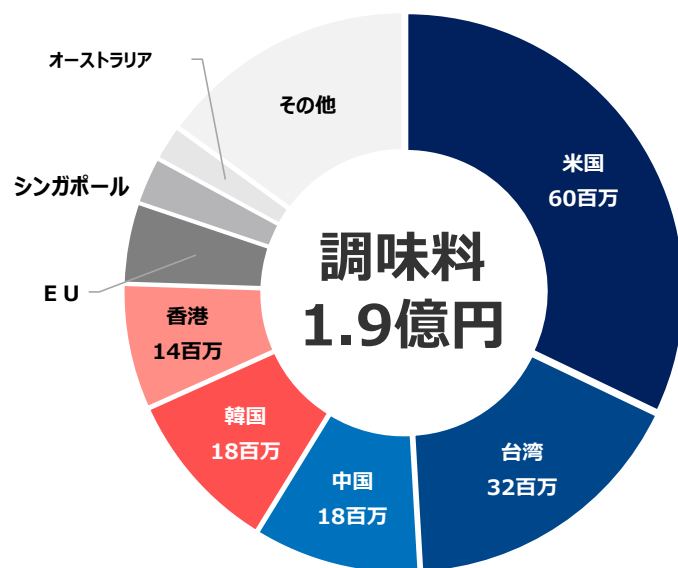


国	R5輸出実績(百万円)		R6輸出実績(百万円)		増減率
米国	178	31.7%	216	41.5%	121.1%
台湾	129	23.0%	106	20.3%	81.6%
中国	106	18.8%	80	15.4%	75.7%
ベトナム	29	5.2%	33	6.3%	111.8%
香港	33	5.9%	25	4.7%	74.0%
韓国	21	3.7%	16	3.1%	79.3%
シンガポール	12	2.2%	13	2.5%	108.7%
EU・EFTA	12	2.2%	9	1.7%	72.9%
その他	41	7.3%	23	4.3%	55.3%
合計金額	562		520		92.6%

※ 出典：大分県商業・サービス業振興課調べ「令和7年度大分県加工食品海外輸出調査」有効回答数20社

1－5 品目別内訳_調味料

調味料輸出額は約1.9億円と過去最高額を更新。米国、韓国、シンガポール、オーストラリアなどで前年を大幅に上回っている。特に米国ではめんつゆ等の輸出が著しく増加した。一方で中国の輸出減の主な原因は商品発注のサイクルによる発注時期のズレであるが、一部ALPS処理水等の輸入制限により影響を受けた商品もある。(商品に含まれるかつお節や昆布のだし類が規制対象となっており、証明書類の提出事務量が負担となっている等)

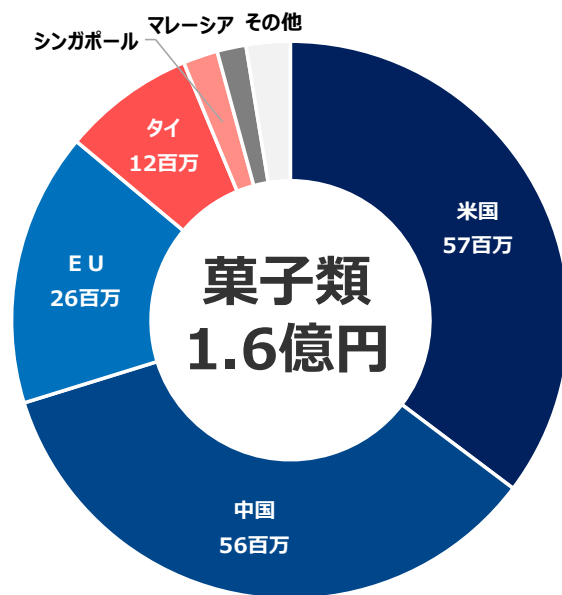


国	R5輸出実績(百万円)		R6輸出実績(百万円)		増減率
米国	17	10.1%	60	32.1%	347.0%
台湾	35	20.3%	32	17.0%	91.2%
中国	32	18.4%	18	9.7%	57.6%
韓国	8	4.8%	18	9.5%	215.5%
香港	17	9.6%	14	7.3%	82.8%
EU	18	10.3%	9	4.7%	49.7%
シンガポール	4	2.3%	5	2.7%	130.6%
オーストラリア	2	1.1%	4	2.1%	207.4%
その他	40	23.2%	28	15.0%	70.7%
合計金額	173		188		109.2%

※ 出典：大分県商業・サービス業振興課調べ「令和7年度大分県加工食品海外輸出調査」有効回答数8社

1－5 品目別内訳_菓子類

菓子類輸出額は約1.3億円と過去最高額を更新、伸び率も全品目の中で1位。どの地域も順調に増加傾向にあり、特にEU地域での新規開拓・取引開始が増額の大きな要因となっている。この結果から、輸出ハードルが高い(食品衛生法・食品添加物規制・混合食品規制・輸出検査への申請等)とされるEU地域での輸出規制をクリアして成果を上げている事業者が増加したことが伺える。

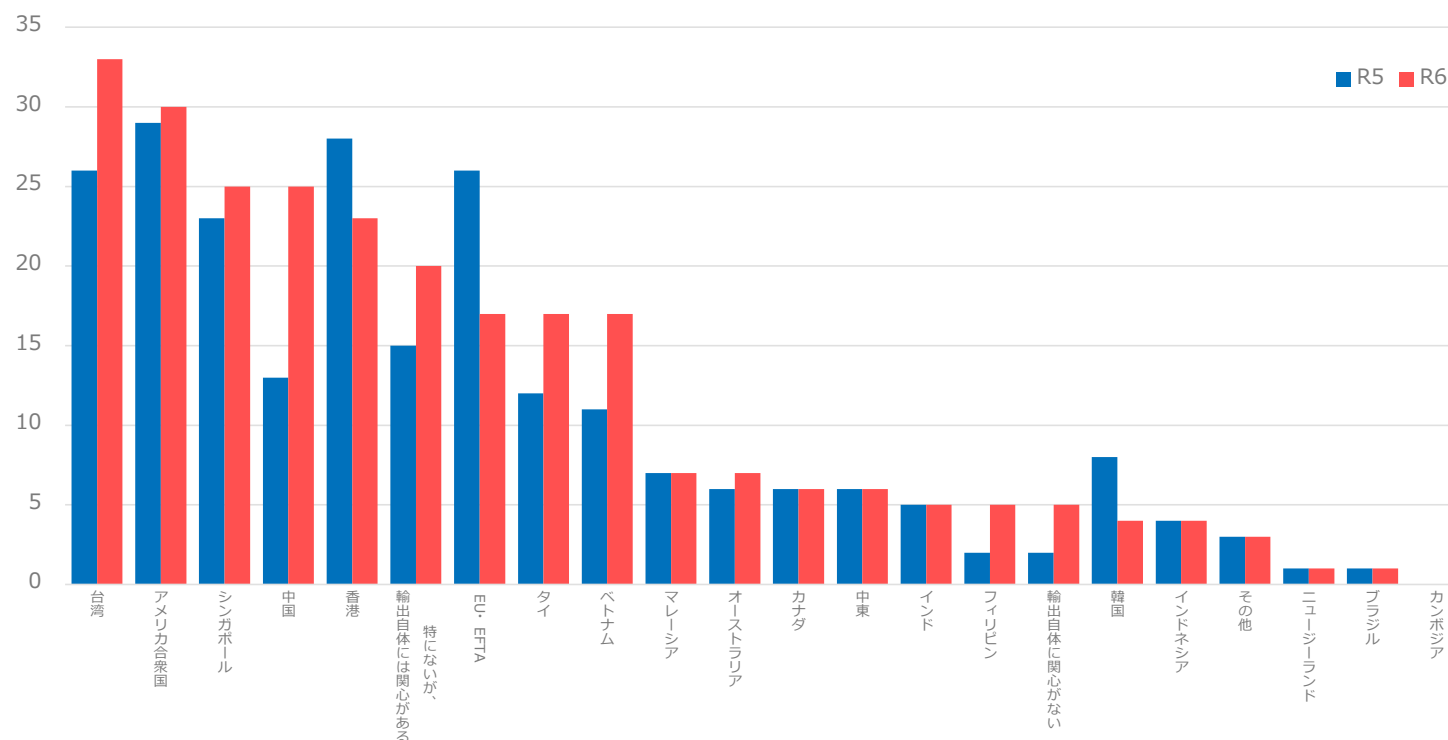


国	R5輸出実績(百万円)		R6輸出実績(百万円)		増減率
米国	50	37.0%	57	35.3%	112.5%
中国	46	33.4%	56	34.9%	123.0%
EU	0	0.0%	26	15.9%	40867.0%
タイ	3	2.4%	12	7.7%	372.7%
シンガポール	1	0.5%	3	2.0%	433.7%
マレーシア	23	17.2%	3	1.7%	11.5%
その他	13	9.3%	4	2.6%	32.3%
合計金額	136		161		117.8%

※ 出典：大分県商業・サービス業振興課調べ「令和7年度大分県加工食品海外輸出調査」有効回答数7社

2-1 事業者アンケート_輸出に関心のある国・地域

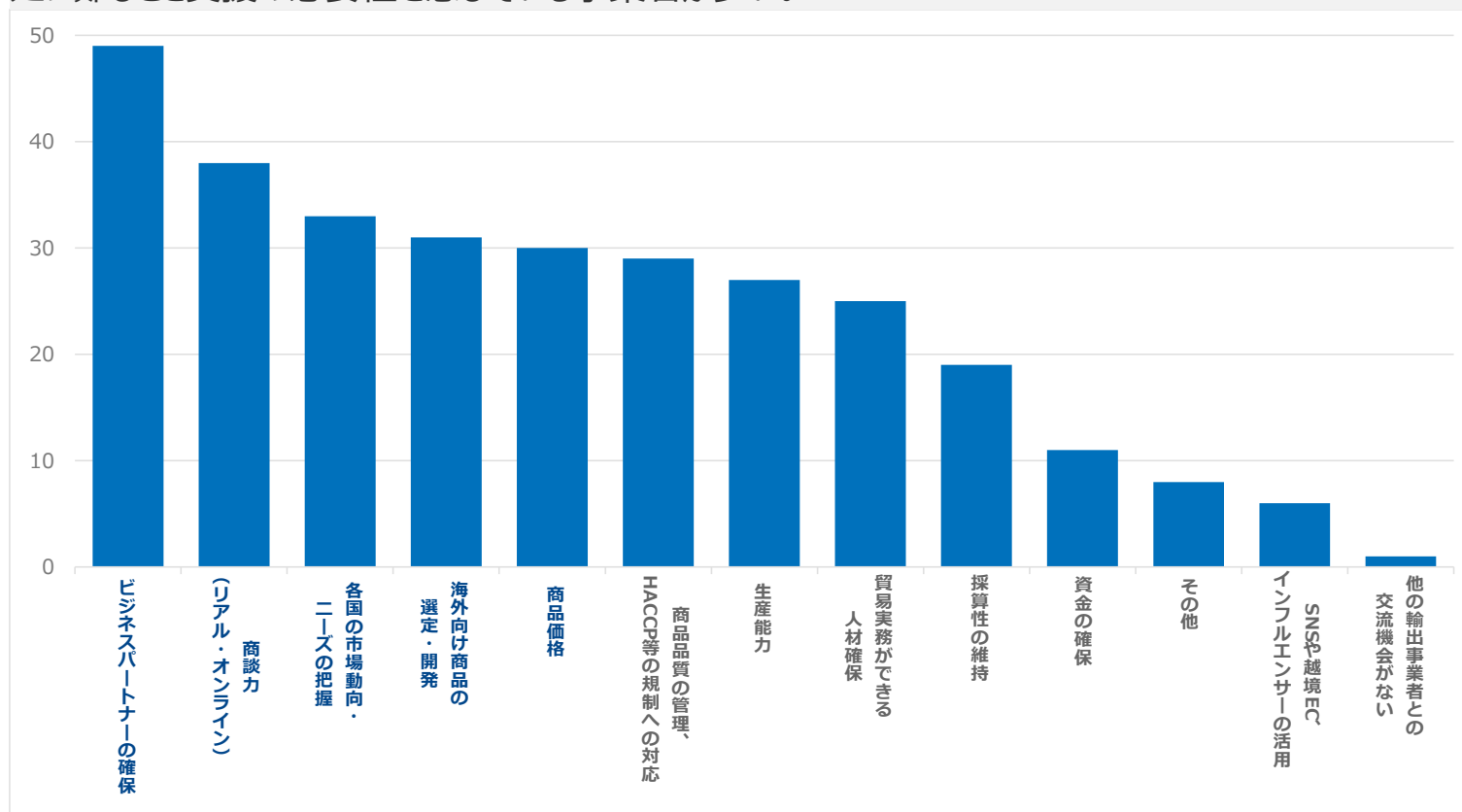
台湾への関心が前年最も関心のあった米国を抜き1位となった。また、ALPS処理水の輸入制限等の影響により落ち込んでいた中国は回復傾向にある。参入ハードルの低いシンガポール、香港への関心も引き続き高い傾向にあり、輸出未実施の事業者を中心に「特にないが、輸出自体には関心がある」という回答も増加。



※ 出典：大分県商業・サービス業振興課調べ「令和6年度大分県加工食品海外輸出調査」有効回答数104社

2-2 輸出をする上で支障となっていること

昨今の国際情勢に不安定さがあるなかで海外販路に挑戦をしなければならない状況のため、信頼のおけるビジネスパートナーの確保や商談力、各国の市場動向・ニーズの把握、商品の選定・開発・価格設定に難しさと支援の必要性を感じている事業者が多い。



※ 出典：大分県商業・サービス業振興課調べ「令和6年度大分県加工食品海外輸出調査」有効回答数104社